

《担当者名》黒崎芳子

【概要】

本講では、失語症学とともに、言語聴覚療法の対象である失語症の診断の枠組み、評価基準、治療の理念と方法、回復・予後について理解する。

【学修目標】

言語聴覚療法の対象である失語症の診断と治療法を実施するために、失語症の診断基準、失語症の主要な症状と病巣との関連、失語症の治療法の理念と方法、回復・予後について理解する

1. 失語症患者に対する評価・診断の基準を説明できる。
2. 失語症の主要な症状と病巣の関連を説明できる。
3. 失語症患者に対する治療の理念と方法を説明できる。
4. 失語症の回復・予後について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	失語症の治療プロセス	失語症の治療プロセス（評価診断の枠組み、評価診断のための情報集）	黒崎芳子
2	失語症の評価診断	失語症の症状分析・タイプ分類	黒崎芳子
3	失語症の評価診断	失語症の発話分析1（非流暢性発話）	黒崎芳子
4	失語症の評価診断	失語症の発話分析2（流暢性発話）	黒崎芳子
5	失語症の評価診断	失語症の症状と病巣	黒崎芳子
6	前半のまとめ	失語症の評価診断のまとめ	黒崎芳子
7	失語症の治療	失語症の治療プロセス（評価診断から言語治療） 失語症の回復・予後	黒崎芳子
8	失語症の治療	失語症の治療の理念と治療法（刺激法、Deblocking Method、機能再編成法）	黒崎芳子
9	失語症の治療	失語症の治療法（認知神経心理学的アプローチの基本概念）	黒崎芳子
10	失語症の治療	失語症の治療法（認知神経心理学的アプローチによる分析）	黒崎芳子
11	失語症の治療	失語症の治療法（実用的コミュニケーション訓練、その他）	黒崎芳子
12	失語症の治療のまとめと予後	失語症の治療のまとめ、臨床への応用	黒崎芳子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート20% 定期試験80%

フィードバックとして、レポート等で多かった誤りについて講義内で解説する。

【教科書】

藤田郁代 他 編 「標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版」 医学書院 2021年

【学修の準備】

予習では、講義内容を確認し、教科書と参考書を読んでおくこと（80分）。

復習では、教科書と講義で配布された資料を整理し、講義内容の理解を確実にすること（40分）。

知識が不正確な箇所については、必要な情報を調べること（40分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

黒崎芳子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、失語症の診断・評価、治療・訓練に関する基本的知識および実践について講義する。